

ディスコグラフィー掲載

ディスコグラフィー【2017No.54】(HP 掲載)

分類：SACD ハイブリッド

作曲家：キース・ジャレット (即興演奏)

曲名：ケルン・コンサート

演奏：キース・ジャレット

発売：TOWER RECORDS/UNIVERSAL ECM SA-CD SELECTION

No. : PROZ-1087

概要：



本盤の商品説明には以下のように述べられています。

世界初、SACD 化音源

SA-CD層は“オリジナル・アナログ・マスターテープから制作した新DSDマスター“を使用し、ECM自ら新マスタリング

ECMの監修の下、新マスタリングを担当したのはキース・ジャレットの諸作にかかわってきたエンジニア、クリストフ・スティッケル(キース・ジャレット/チャーリー・ヘイデン『ジャスミン』、同『ラスト・ダンス』etc)

CD層は従来からの唯一のCDマスターを使用

SACDハイブリッド盤(通常のCDプレイヤーでの再生可)

通常パッケージ仕様

盤印刷面:緑色仕様

シリーズ監修、試聴ポイント解説:和田博巳氏(オーディオ評論家)、作品解説:原田和典氏(ライター/ジャーナリスト)

タワーレコード企画限定盤 完全限定プレス

本盤はオーディオ仲間からキース・ジャレットが使用しているピアノは何であるか、分

かるかという問いかけに発して聴くことになったものです。

SACD層を Maranz SA11-S2 で、CD層を EMT981 と CD ドライブ BRD-UT16WX から fidata により 44.1KHz PCM で USB-DAC に送り出して聴いてみました。また、既に発売の CD (UCCU-99004) も併せて聴いてみました。

SACD層を Maranz SA11-S2 で聴いてみますと、これまでの CD にはない音の細やかさやディテールの再現が聴き取れます。ピアノはあきらかにスタンウェイではなくベーゼンドルファーのように聴き取れます。

なお、上新電機のハイエンドアナログ試聴会でアナログ盤を聴く機会がありましたが、アナログ盤に大きく劣ることのない音質でアナログマスターからの DSD リマスタリングが成功しているようです。

SACD/CD ハイブリッドの CD 層と CD を EMT981 で聴いてみますと、音の肌理は粗くなりますが、ともに EMT981 独特のアナログ的な音色が楽しめます。ハイブリッドの CD 層と CD の違いは感じられません。

SACD/CD ハイブリッドの CD 層と CD を CD ドライブ BRD-UT16WX から fidata により 44.1KHz PCM で USB-DAC に送り出して聴いてみますと、fidata による CD 再生独特の静寂感とディテールの再現が聴き取れます。ハイブリッドの CD 層と CD ではリマスタリングは同じということですが、プレスの違いやハイブリッドの方は表面が緑色の印刷にしているためか、若干アタック感や響きの細かいところが分かりやすくなっています。

CD では、上記のどちらの再生方法でも、ハイブリッドの CD 層と CD とも、ピアノはベーゼンドルファーのように聴き取れます。

キース・ジャレットとの音楽性については、特に得意な音楽ジャンルではないのですが、説得力がある演奏なので、聴かせられてしまいます。なお、既に発売の CD については次のような議論があるのでご参照ください。

https://www.amazon.de/Koln-Concert-Jarrett-Keith-Audio/product-reviews/B00FT02H0C/ref=cm_cr_ar_paging_btm_7?pageNumber=7

<http://yhkhashimoto.hatenablog.com/entry/2015/12/28/223000>

https://www.wikiwand.com/en/The_K%C3%B6ln_Concert

以上